

令和5年 4月 7日

報道機関 各位

国立大学法人 富山大学

医療と介護の保険データの統合分析から、
持続可能で地域特性に最適化された医療・介護のプロデュース・
マネジメントにより、心身の幸福度の向上を目指します

■ ポイント

- 富山大学附属病院は、上市町、朝日町、富山県後期高齢者医療広域連合（順不同）との間で連携協定を、令和5年4月1日に締結した。
- 富山大学附属病院では、医療情報・経営戦略部とデータ科学・AI 研究推進センターの高岡裕教授らの研究チームが、提供された医療データと介護データを連結し、医療と介護の統合データベース構築と、その分析を担当する。
- 本取り組みは富山大学第4期中期計画の「社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進」に関連する「データサイエンスミッション・持続可能社会プロジェクト」として、高齢者の医療と介護のデータを連結し統合解析を行うことで、介護予防、重症化の予防などの取り組みに資するエビデンスを提供し、心身に関する幸福度（フィジカル ウェルビーイング）を高め、健康長寿の実現にデータ科学の面から社会貢献することを目的としている。

■ 概要

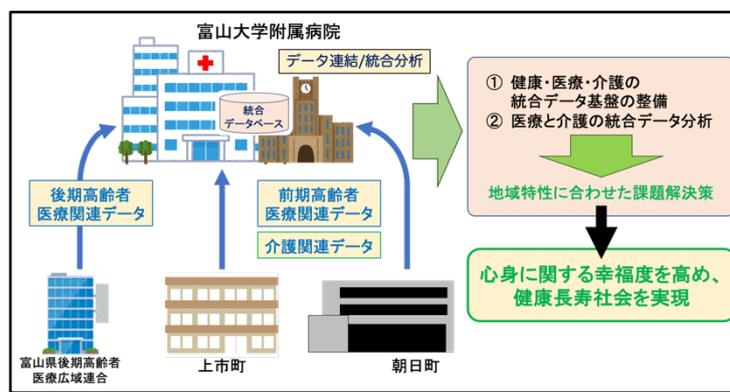
富山大学附属病院（林 篤志 病院長）は、上市町、朝日町、富山県後期高齢者医療広域連合と各々連携協定を締結しました。本連携協定は、富山大学の第4期中期計画の「社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進」、さらにデータサイエンスミッションでは富山大学の学長裁量経費「持続可能社会プロジェクト」（地域活性化推進経費・代表 武山良三 地域連携推進機構長）の“ウェルビーイング・パート”として、心身の幸福度（フィジカル ウェルビーイング）を高めることを目標に準備を進めてきました。具体的には、スマートライフによる健康寿命の延伸と幸福度の向上に寄与するべく、複数のデータの統合化を基盤とした持続可能で地域特性に最適化された医療・介護体制をプロデュース・マネジメント可能な体制構築に取り組みます。

これまで富山大学附属病院では、医療情報・経営戦略部とデータ科学・AI 研究推進センターの高岡裕教授らの研究チームが富山県の地域医療のデータ推計に取り組んでおり、その経験を活かして医療と介護の統合データ解析を推進します。分析結果は連携先機関と共有し、必要な提言に繋げていきたいと考えています。その際、連携先自治体との間に情報共有の場として協議会を設けることで、定期的な意見交換を実現してまいります。

■ 連携協定による研究の背景と進め方

75歳を境に、65歳以上の高齢者は前期と後期に区分されており、これまでも医療保険のデータを集め分析する取り組みは存在しています。また介護データ分析の取り組みも進められています。しかし、高齢者の場合は医療保険と介護保険の両方を使うことができますので、これらを統合化して併せて見ていく必要がありますが、そのような取り組みは稀です。

そこで今回の取り組みは、医療と介護のデータ連携による統合データを分析して、介護予防、重症化の予防などに貢献します。具体的には、富山大学附属病院の倫理委員会の許諾を得たのち、前期高齢者医療制度では主として自治体の国民健康保険（国保）、後期高齢者医療制度では富山県後期高齢者医療広域連合から医療保険データを得ます。次に、介護保険データは自治体から委託された介護保険組合から得ます。いずれのデータも富山大学附属病院に提供いただき、65歳以上では介護保険データには被保険者番号が付与されていることを利用して医療保険関連のデータと連結します。データ連結による統合データベース化後に匿名化することにより個人情報保護し、病院内の最もセキュリティの高い区画にてデータ分析に供します。



■ 今後の展開

医療と介護の統合データの分析結果は連携先機関と共有しますが、連携先自治体との間に情報共有の場として協議会を設けることで、定期的な意見交換を実現してまいります。

また、医療と介護の統合データから見出された特徴的なケースについては、地域の総合病院（かみいち総合病院、あさひ総合病院）や診療所、介護事業所とも連携していくことで、深みのあるライフイベントの分析につなげていきます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部医学系 教授 高岡 裕（たかおか ゆたか）

TEL : 076-434-7311 (部門直通) Email : ytakaoka@med.u-toyama.ac.jp